

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 22 日 (2007.3.22)

【公開番号】特開 2005-245047 (P2005-245047A)
 【公開日】平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-035
 【出願番号】特願 2004-47367 (P2004-47367)
 【国際特許分類】

H 0 2 K 33/00 (2006.01)

F 0 4 B 35/04 (2006.01)

H 0 2 K 35/02 (2006.01)

【F I】

H 0 2 K 33/00 A

F 0 4 B 35/04

H 0 2 K 35/02

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 1 日 (2007.2.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

並設コイルと共に少なくとも 3 つの磁極片を備えるヨークに、所定手段によって支持される可動子マグネットを対向配設すると共に、該可動子マグネットを、その極に対して磁極片を同極または異極性に励磁することにより磁気推力を与え、磁極片間を往復駆動すべく構成せしめたりニアアクチュエータであって、前記可動子マグネットの極には、該可動子マグネットの磁力線を前記少なくとも 2 つの磁極片に向けてそれぞれ磁路を形成すべく強磁性片を設けると共に、該強磁性片の各先端部を、その停止位置において、移動方向に推力を与えるべく前記磁極片の中心位置よりも移動方向に位置ズレさせて構成してあることを特徴とするリニアアクチュエータ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

上記課題を解決するために本発明が採用した技術手段は、並設されるコイルと共に少なくとも 3 つの磁極片を備えるヨークに、所定手段によって支持される可動子マグネットを対向配設すると共に、該可動子マグネットを、その極に対して停止位置側の磁極片を同極性に励磁し、移動側の磁極片を異極性に励磁することにより磁気推力を与え、磁極片間を往復駆動すべく構成せしめたりニアアクチュエータであって、前記可動子マグネットの極には、該可動子マグネットの磁力線を前記少なくとも 2 つの磁極片に向けてそれぞれ磁路を形成すべく強磁性片を設けると共に、該強磁性片の各先端部を、その停止位置において、移動方向に推力を与えるべく前記磁極片の中心位置よりも移動方向に位置ズレさせて構成してあることを特徴とするものである。